真ん中に舞台が設置され、昼食のあと、雅楽と舞楽の奉納がありました。御門徒の皆様と共に本堂の畳に座らせていただき、珍しい舞踊を間近で堪能させて頂きました。長仁寺よりただおひとり、帰敬式を受けられた島津健児さんが戻ってこられると、住職がさっそく法名を読み上げました。「**釋**開願」という法名をいただかれました。**親鸞様**を親とし、仏様のお弟子として新たな門出を迎えられた嶋津さんを祝福し、他の御門徒様たちと共に歓びあうといううれしい時間でした。

御門徒様の様子を見ていると、私はその方々の先代の今は亡きじいちゃんやばあちゃんのお顔が浮かんでくるのでした。御門徒の方々も、じいちゃんばあちゃんの御信心の徳をいただかれ、この５０年に一度という御勝縁に参らせていただかれている。そのじいちゃんばあちゃんも、そのまた御先祖様の御信心を受け継がれている。連綿と伝わる御信心の伝統が７５０年という歴史を支えてくださっている、それは言葉では表すことのできない厳粛な尊い事実です。この事実の前に私は自ずと頭（こうべ）を垂れざるを得ません。ご本願に統一された真宗門徒の計り知れないいのちのつながりに感動をおぼえずにいられませんでした。

こういうことが喜べるのも、浄土は死んでからでない、この世で生まれるのだと、そして念仏者としての生きる方向を指し示し導いてくださった善き師大石法夫先生のお陰であります。

この度の御遠忌法要へは、長仁寺からは２２名の御参加でしたが、この２２名の方はすべての御門徒様の代表としてご参詣下さいました。当日は築上組の御門徒様と合同の団体参拝でしたが、日豊教区全体ではどれだけの人数になるのでしょう。その背後に広がる真宗一流を支えてくださった無数のいのちが、形を超え時を超えて一同に会しているような温かくにぎやかな**親鸞様**の御法事に、不可思議にも加えていただいたわが身の幸せに自ずと感謝の気持ちが湧いて参りました。

　帰り着くまで雨に降られましたが、私のこころはホクホクと温かく満ち足りていました。これがお慈悲の味だなと心に強く残りましたから、さっそくブログに投稿しました。**親鸞様**のお慈悲の味を忘れないように。750年という長い時間を経てもなお、我々に注ぎつづけられる**親鸞**様のお慈悲、願いの大きさ、その伝統にあずかる幸せと重みを心に刻み、日々、御恩報謝に精進して参りますと御本尊に御報告させていただきました。**親鸞様**のお慈悲に溶かされてか、隣の住職にいつも向けられる棘（とげ）が、知らぬ間に消えているのも不思議でした・・・。

十方諸有（じっぽうしょう）の衆生（しゅじょう）は

阿弥陀至徳の御名（みな）をきき

真実信心いたりなば

おおきに所聞（しょもん）を慶喜（きょうき）せん

本願力にあいぬれば

むなしくすぐるひとぞなき

功徳（くどく）の宝海みちみちて

煩悩の濁水（じょくしい）へだてなし

**親鸞聖人**

なむあみだぶつ　なむあみだぶつ　　　合掌　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　法喜